

大切な国民のいのちとくらし 医療・介護の現場を守るため 力をあわせて大きな協同行動に取り組もう

組合員のみなさん

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の猛威により、私たちはかつて経験したことがない困難な状況に直面しています。そして、この困難はワクチンや治療法の開発まで一定期間続くでしょう。すでに国民生活には深刻な影響が出ています。自粛要請で収入減や職を失う人、学校の休校やテレワークなど、慣れない環境での経済的な負担や心身への負担、社会的に弱い立場にある人ほど影響は大きいと言われています。「常に地域の中の困っている人々に関心を寄せ、私たちにできることを考え行動します」という私たちの理念に沿って、地域の人たちのくらしといのちを支える活動に取り組みしましょう。

組合員のみなさん

感染阻止の最前線である医療・介護現場も大きな危機に直面しています。もともとギリギリの経営状態だった医療機関や介護事業所が、感染対策費が増える一方で、健診の先送りや軽症患者の抑制、利用者の自主規制などにより大きな収入減に陥っています。このままでは多くの医療機関や介護事業所が倒産や廃業に追い込まれる危険があります。

栃木保健医療生協の事業経営にも影響が出ています。2019年度の決算は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受け赤字となり、2020年度のスタートも大変厳しい状況です。栃木保健医療生協は近年、在宅医療に力を入れ小さいながらも着実に事業を拡大し、常勤医師8人体制となりました。しかし、今の状況が続けば私たちの事業継続も困難になることは必至です。

組合員のみなさん

政府は、6月12日に第二次補正予算を成立させましたが、日本医師会などが求めていた「7・5兆円の資金投入」には程遠く、収入減の医療機関への損失補てんや財政支援策は具体化されませんでした。

このままでは感染拡大の第二波、第三波への備えどころか、多くの医療機関や介護事業所が経営困難に陥ります。地域医療や介護の崩壊は、住民の医療や介護を受ける権利を脅かします。国民のいのちとくらし、すべての医療機関や介護事業所を守るために力をあわせましょう。

組合員のみなさん

このようなかで栃木保健医療生協の各事業所は、他の医療・介護事業者とも連帯し、感染拡大を阻止するために全力で奮闘しています。自らの感染への不安を抱えながら、家族や地域を守り支えてきた働く仲間への存在は私たちの宝です。

地域においては、活動休止という制約の中で電話での声かけ運動を実施し心のつながりを保つてきました。「声が聞けてうれしい」「早く集まってみんなで体操がしたい」などの声に、人と人とのつながりの大切さをあらためて感じます。6月から「新しい生活様式」を実践する地域活動を再開しています。「健康づくりの栃木保健医療生協」らしく、創意工夫して地域に貢献してまいります。仲間ふやしと出資金ふやしは生協を守り強くする重要な活動です。多くの人に協力を呼びかけましょう。

組合員のみなさん

「協同の力でいのち輝く社会をつくろう」第45回通常総代会のメインテーマです。このテーマ実現のために、戦争や差別のない平和な社会、国民の基本的な人権が尊重される社会保障制度充実を求め、声を上げましょう。日本国憲法を守り生かすために、多くの人と手を携え行動しましょう。右決議します。